## 183　欠かせぬ就労外国人

令和８年11月19日掲載

最近は多くの外国人観光客を見かけますが、県内でも観光客だけでなく、コンビニや飲食店など身近な場所でも、外国の方を見かける機会が増えています。

今年９月に公表された令和７年国勢調査の人口等基本集計によると、山口県に住む外国人は２万639人で、令和２年の１万5,985人から約３割増えました。総人口が減少する中、外国人は増加しています。

国籍別に見ると、最も多いのはベトナムの4,483人（21.7％）、次いで韓国・朝鮮の4,241人（20.5％）、インドネシアの2,567人（12.4％）となっています。令和２年と比べるとインドネシアが約4.8倍と大幅に増加しています。また、全国では中国、ベトナム、韓国・朝鮮の順で多く、山口県とは異なる特徴が見られます。

そこで、在留外国人統計（令和７年12月末）から県内の外国人の在留資格を見てみると、技能実習や特定技能など就労に関するものが多く見られます。特に、インドネシア国籍の方は技能実習や特定技能が約９割を占めています。また、県内の技能実習者のうち約５割をベトナム国籍の方が占めています。

こうした就労目的での外国人の受け入れが、インドネシアやベトナムの方が増えている背景の一つと考えられます。

外国人の増加は、地域の産業や暮らしを支える重要な力にもなっており、山口県の社会や経済を考える上で欠かせない存在となっています。

今後、就業状態や人口移動など、さらに詳しい国勢調査結果が順次公表されます。これらの結果から、山口県の人口や暮らしの変化がさらに見えてくるかもしれません。ぜひ注目してみてください。

